



学校評価アンケートの結果

本校の教育活動の取組は十分であったか、子どもたちが望ましい姿に変容したかを、保護者、児童、教員にアンケートを行い、考察しました。

よくあてはまる A	あてはまる B	あてはまらない C	全くあてはまらない D
---------------------	-------------------	---------------------	-----------------------

1 教育課程・学習指導

(1)学校の授業は、児童にとって分かりやすいものになっている。

「授業で学習している内容が分かる」と答えた児童(80%)



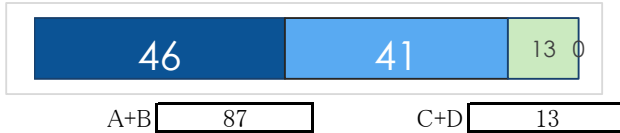
(2)児童の学びの実態を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めている

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ができた」と答えた教員(80%)



(3)ICT機器を効果的に活用した授業づくりに取り組んでいる

「ICT機器を効果的に活用した授業づくりに取り組んだ」と答えた教員(80%)



(4)家庭での学習や読書の習慣を身につけるための手立てを工夫している

家庭学習や読書を(週平均して)1日あたり30分以上行っている」児童(80%)



考察

天沼小学校での授業が適正に行われているかについて振り返りました。

日常の授業については、大方、望ましい評価を得ることができました。**家庭での学習や読書の習慣に関しては課題があるようです。**

(1)「授業で学習している内容が分かる」と答えた児童が97%います。多くの児童が授業内容を理解しているようです。授業で学んだことをしっかりと定着させるための工夫ができるとよいと考えます。

(2)「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善ができた」と答えた教員は83%でした。授業改善を目指した校内職員研修に取り組んでおり、日々の授業の質を高める取り組みができたと考える教員が8割を超えているということです。引き続き、授業の質の向上に努めていきます。

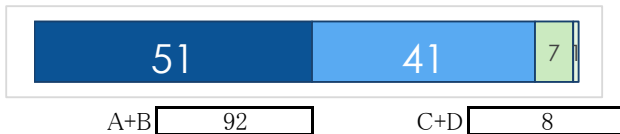
(3)「ICT機器を効果的に活用した授業づくりに取り組んだ」と答えた教員が87%でした。1人1台のタブレットが配備されたことでICT機器の活用が加速しました。今後、授業での活用場面が増えてくると思われます。

(4)「家庭学習や読書を(週平均して)1日あたり30分以上行っている」と答えた児童が72%でした。数値目標の80%に達しませんでした。「授業で学習している内容が分かる」と答えた児童が多いだけに、少し残念な結果です。この部分の改善策を考えることが、授業で学んだことを定着させることにつながるのではないかと考えます。具体的な改善策を考え、新年度の取り組みに生かして参ります。

2 生徒指導

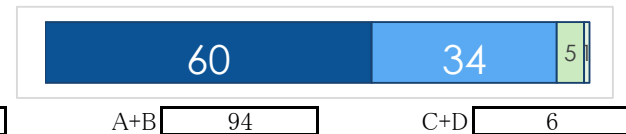
(1)あいさつなどの基本的な生活習慣や、適切な言葉遣いを身につけられるよう指導に努めている

「進んであいさつしたり、適切な言葉遣いをしている」と答えた児童(80%)



(2)学校はいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組んでいる

「学校は、いじめのない温かな人間関係づくりに努めている」と答えた保護者(100%)



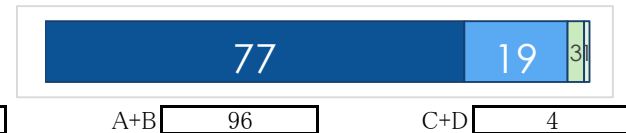
(2)学校はいじめの未然防止・早期発見・早期解決に取り組んでいる

「学校は、いじめのない温かな人間関係づくりに努めている」と答えた教員(100%)



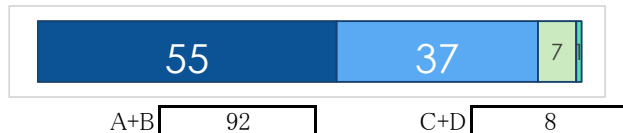
(3)学校は児童の悩みや問題などの実態把握に努め、情報を共有して、指導に活かしている

「先生は、いじめがあったときや困ったときに相談にのってくれる」と答えた児童(80%)



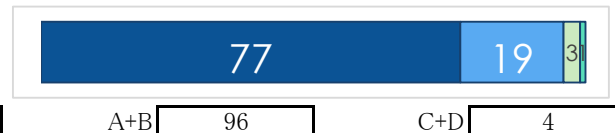
(3)学校は児童の悩みや問題などの実態把握に努め、情報を共有して、指導に活かしている

「学校は、児童のことで相談がしやすい」と答えた保護者(80%)



(4)学校は教師と児童、児童間での望ましい人間関係づくりに努めている

「元気に楽しく学校に通えている」と答えた児童(80%)



考察

生活習慣やいじめ対策、児童の心の成長について振り返りました。

(1)「進んであいさつしたり、適切な言葉遣いをしている」と答えた児童が92%でした。実際、本校の児童は大変よく挨拶をします。登校時の「おはようございます」だけでなく、日中も廊下で頻繁に挨拶を交わしています。一方、適切な言葉遣いをしているかについては、飽くまでも印象ですが、若干の疑問が残ります。挨拶がしっかりできているという事実を前向きに評価し、ほめることで、児童を勇気づけていくことが必要だと考えます。

(2)「学校は、いじめのない温かな人間関係づくりに努めている」と答えた保護者が94%

(2)「学校は、いじめのない温かな人間関係づくりに努めている」と答えた教員が100%

(3)「先生は、いじめがあったときや困ったときに相談にのってくれる」と答えた児童が96%

(3)「学校は、児童のことで相談がしやすい」と答えた保護者が92%

(4)「元気に楽しく学校に通えている」と答えた児童が96%

9割を超える保護者、児童に前向きな評価をいただいていることを感謝します。しかし、いじめ対策は1人でも取りこぼしがあってはならないことです。今後も、児童の見取り、保護者との連絡を丁寧にすすめ、いじめ問題の対応に取り組んでいきます。

3 キャリア教育

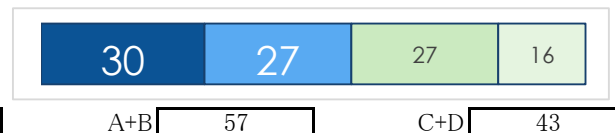
(1)児童が自分の将来の夢や希望について考えられるよう、キャリア教育の実践に取り組んでいる

「自分の将来の夢や、なりたい職業について考えることがある」と答えた児童(80%)



(2)親子で児童の将来の夢や希望について話し合えるよう、家庭への働きかけをしている

「将来の夢や希望について、家族で話題にすることがある」と答えた児童(80%)



(2)親子で児童の将来の夢や希望について話し合えるよう、家庭への働きかけをしている

「将来の夢や希望について、家族で話題にすることがある」と答えた保護者(80%)



考察

(1)「自分の将来の夢や、なりたい職業について考えることがある」と答えた児童が87%

(2)「将来の夢や希望について、家族で話題にすることがある」と答えた保護者は94%

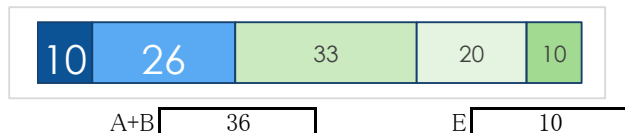
(2)「将来の夢や希望について、家族で話題にすることがある」と答えた児童が57%

子どもたちと将来の夢について話すとき、就きたい職業に限る必要はありません。人を喜ばせたい、人の役に立ちたい、得意なことを活かしたいなど、生き方や価値観について話題にすることが大切です。どんな大人になりたいかなどについて話し、大人になることを楽しみできるような関わりをすることが大切です。アンケートの結果からは、児童も保護者も、子どもの将来について高い関心を持っているが、その印象度には若干のギャップが見られます。子どもの成長、大人になる姿を親子共々楽しみにする体験を重ねることが必要なのかも知れません。

4 健康・安全教育

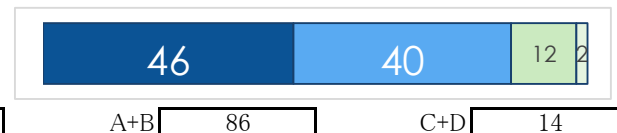
(1)体力向上プランを作成し、体力向上に向けた具体的な取組を行っている

ABランクを40%以上、Eランクを10%以下にする



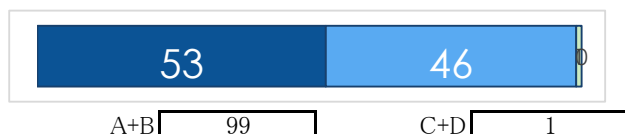
(2)食に関する全体計画に沿って、学校給食と関連づけた効果的な食育に取り組んでいる

「好き嫌いをせず、3食しっかりと食べるなど、健康的な食生活を送っている」と答えた児童(80%)



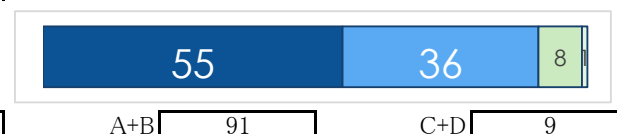
(3)学校保健計画に基づいて健康診断や、感染症予防等も含めた適切な保健指導を行っている

「学校は児童の健康保持増進に努めるとともに、感染予防対策等を適切に行っている」と答えた保護者(80%)



(3)危機管理マニュアルの作成・見直しに基づいて、自然災害、交通安全、不審者対応、学校事故などの安全教育を適切に行っている

「学校は、家庭や地域と協力して交通安全指導や通学路点検などを行うとともに、火災や不審者対策など、児童の安全対策を行っている」と答えた保護者(80%)



考察

(1)体力向上プランにおける体力測定の結果ABランクの児童が36%

(2)「好き嫌いをせず、3食しっかりと食べるなど、健康的な食生活を送っている」と答えた児童が86%

(3)「学校は児童の健康保持増進に努めるとともに、感染予防対策等を適切に行っている」と答えた保護者が99%

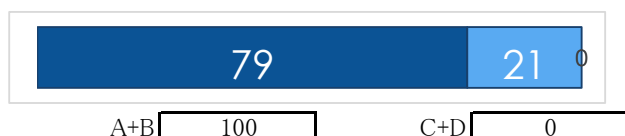
(3)「学校は、家庭や地域と協力して交通安全指導や通学路点検などを行うとともに、火災や不審者対策など、児童の安全対策を行っている」と答えた保護者が91%

感染予防対策、安全教育や防犯対策については一定の評価を得ていますが、**児童の体力について課題があることが分かります。感染予防対策の影響を受けて、体を動かす活動や体育の授業のあり方などにも制限がありました。小学生期の体力向上は、生涯の健康にも影響します。感染防止対策と体力作りの両立を工夫する必要を強く感じます。**

5 特別支援教育

(1)教職員間で特別な配慮を必要とする児童の情報を共有し、適切な指導の充実に努めている。

「特別な配慮を必要とする児童の情報を同僚と共有し、適切な指導を行うよう勤めている」と答えた教員(90%)



考察

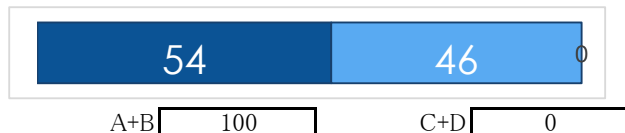
「特別な配慮を必要とする児童の情報を同僚と共有し、適切な指導を行うよう勤めている」と答えた教員が100%

天沼小学校では、学級担任だけでなく、チームとして、全職員が全児童を担当する意識を持って日々の業務に当たっています。

6 組織運営

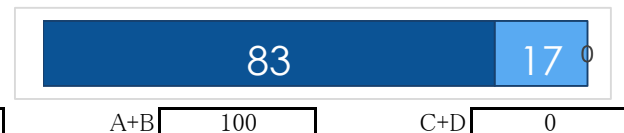
(1)学校教育目標や学校経営方針を理解し、その実現に向け、管理職・教職員が一体となって努力している。

「学校教育目標や学校経営方針を理解し、管理職の考えを踏まえた教育実践をしている」と答えた教員(80%)



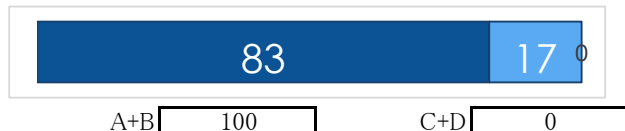
(2)日々の教育活動における問題意識について、管理職や教職員間で気軽に相談し合えるとともに、連携・協力を努めている。

「日々の教育活動における問題意識について、管理職や教職員間で気軽に相談し合えるとともに、連携・協力を努めている」と答えた教員(80%)



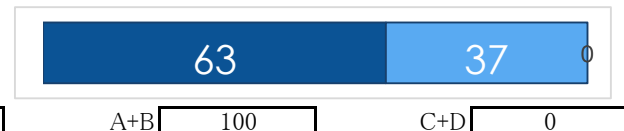
(3)校内服務規律委員会を定期的を開催し、教職員の服務規律確保に努めている。

「教育公務員としての職責を自覚し、服務規律の確保に努めている」と答えた教員(100%)



(4)各種文書・データ・個人情報適切に管理されている。

「各種文書・データ・個人情報は適切に管理されている」と答えた教員(100%)



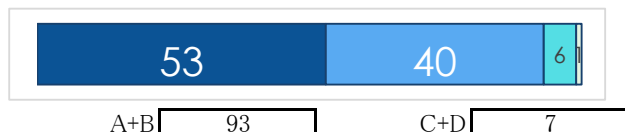
考察

- (1)「学校教育目標や学校経営方針を理解し、管理職の考えを踏まえた教育実践をしている」と答えた教員が100%
 (2)「日々の教育活動における問題意識について、管理職や教職員間で気軽に相談し合えるとともに、連携・協力を努めている」と答えた教員が100%
 (3)「教育公務員としての職責を自覚し、服務規律の確保に努めている」と答えた教員が100%
 (4)「各種文書・データ・個人情報は適切に管理されている」と答えた教員が100%
 すべての項目において高い自己評価となっています。教員一人一人が教育公務員としての自覚を持ち、リスク管理に努めていることがうかがえます。教育公務員組織の一員であるとの意識を高く持ち続けるとともに、実際に事故のないよう日々の業務に当たっていきます。

7 家庭や地域との連携・協働

(1)保護者や地域に対して学校の情報発信に努めている

「学校は、学校の教育活動や児童の様子をわかりやすく伝えている」と答えた保護者(80%)



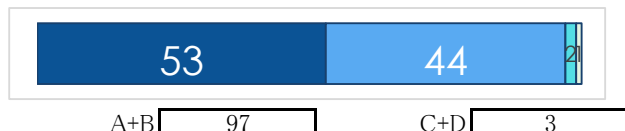
(2)保護者や地域に対して、授業公開や学校行事に参加してもらえるよう努めている

「授業参観や学校行事などに進んで参加している」と答えた保護者(80%)



(3)事故や問題が生じた際、保護者への連絡・対応を迅速かつ的確に行っている

「学校は事故や問題は生じた際、保護者への連絡・対応を迅速かつ的確に行っている」と答えた保護者(90%)



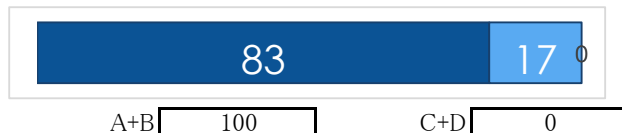
考察

- (1)「学校は、学校の教育活動や児童の様子をわかりやすく伝えている」と答えた保護者が93%
 (2)「授業参観や学校行事などに進んで参加している」と答えた保護者が95%
 (3)「学校は事故や問題は生じた際、保護者への連絡・対応を迅速かつ的確に行っている」と答えた保護者が97%
 いずれの項目とも9割以上の保護者から肯定的な評価を頂きました。ひきつづき、学校だより、学年・学級通信、ホームページ等を通じて学校からの情報をお伝えするとともに、必要に応じて、保護者と担任の連絡に努めます。学校と保護者の足並みを揃えることで、教育の効果を高めていきましょう。

8 施設・設備

(1)ICTを活用した授業を実施するための整備が整えられている

「学校はICTを活用した授業を実施するための整備に努めている」と答えた教員(80%) アンケート取り忘れ



(1)ICTを活用した授業を実施するための整備が整えられている

「学校はICTを活用した授業を実施するための整備に努めている」と答えた保護者(80%)



(2)校務の効率化を図るために情報整備に努めている

「学校は校務の効率化を図るための情報整備が進んでいる」と答えた教員(80%)



(3)学校の施設・設備の定期点検を行い、児童が安全に活動するための対策を具体的に講じている

「施設・設備の安全点検を定期的に行い、児童が安全に活動するための対策を具体的に講じている」と答えた教員(100%)



考察

(1)「学校はICTを活用した授業を実施するための整備に努めている」と答えた教員が100%

(1)「学校はICTを活用した授業を実施するための整備に努めている」と答えた保護者が94%

1人1台のタブレット端末が配備され、家庭への持ち帰りも施行されたことから、上記のような高い評価を得ることができたと考えます。今後も、教育効果を実感できるような活用方法を工夫することが必要だと考えています。

(2)「学校は校務の効率化を図るための情報整備が進んでいる」と答えた教員が88%

昔は手書きしていた多くの書類、諸帳簿がIT化され、コンピュータ入力できるようになってきました。書き込みの他、修正・訂正が速やかにできるようになり、また、保管・検索がしやすくなりました。校務が効率化されつつある一方、新たな業務が生まれていることも事実です。12%のC評価はそうした実情を示していると考えます。

(3)「施設・設備の安全点検を定期的に行い、児童が安全に活動するための対策を具体的に講じている」と答えた教員が100%

児童が一日の大半の時間を過ごす学校は安全でなければなりません。学校の施設・設備の安全点検は、定期的かつ日常的に行われています。それでも事故は、予期せぬ事態に、想定外に起こることがあります。施設・設備のハード面の管理に加え、その使用方法や校内での生活の仕方についても一層の安全確保に努めていきます。